

ちんじゅの森 通信

～秋～
2025

ご遷宮と日々の歩み

森村 衣美

夕方になるとリロリロリロと耳に心地よい虫たちの合唱が聞こえてくるようになりました。暑さの夏が過ぎ、風の心地よい秋となりました。

ちんじゅの森サロンほぐほぐでは、5月初旬に田植えした稲が高い気温の中でぐんぐん育ち、9月初旬に稲刈りを終えました。今年も文化庁の助成金を得て夏休みに行った「はじめての神楽教室」に参加したお子さんが、稲刈りのご神事で「稲穂の舞」を奉納してくれたのはかわいらしく、その後みんなで無事に稲刈りし収穫に感謝しました。「いただきます」の挨拶は日常的な毎日の感謝の表現ですが、少し非日常的な稲刈りのご神事のお祭りが、年に一度、秋の実りに感謝するよい機会となれば嬉しく思います。

毎年恒例の活動に加え、今年4月より、スタッフの関心から「ゆるく集まる夕べの会」を始めました。他地域の一次産業の現場で活躍している方たち(スタッフの知り合い)の協力を得て、農や漁の現場の実情や肌感覚を聞かせていただいています。都市生活は流通の力で成り立っていますが、その前提は他地域の自然や人の力です。都市生活をする私たちが食卓の背景を確認することは、都市生活を継続する上でますます大事なことだと思っています。また都市生活においても家庭から出る生ごみから堆肥をつくり次に育てる植物に活かそう!と気軽にできるコンポストの会も実施しました。スタッフそれぞれの関心や技術、得意なことを活かしてもらい、ちんじゅの森の活動に合う形を探りながら、いくつもの企画を行えるようになったことがとても楽しく、NPOちんじゅの森がより豊かになっていることを感じています。

そして今年は、令和15年に予定されている第63回神宮式年遷宮の諸祭がはじまった年であり、NPOちんじゅの森では今年から8年間の予定で、伊勢神宮のご遷宮をお伝えするフォーラムをスタートしました。伊勢神宮の式年遷宮は、1300年以上の歴史をもつ壮大なお祭りです

が、NPOちんじゅの森がはじまるきっかけとなったお祭りでもあります。ちんじゅの森は、中尾前代表が、遷宮が神聖な木を敬い大切に再利用するという持続可能な循環型社会の精神を体現していることに感銘を受け、自然と共生してきた日本人の知恵を継承する活動を行いたいと考えたことから始まりました。ですから、引き継いだ私にとっても、ご遷宮フォーラムは大事な活動です。

人は自然の恵みを得て、さまざまに工夫して生活を営んできました。祭りはその間にあって、自然と生活をつなぐことができました。伊勢神宮の式年遷宮は20年に一度社殿を建て替え、神さまに新しい社殿へとお引っ越しいただく祭りです。規模も大きく、私たちの日常生活とは少し離れたところにある特殊なお祭りと思えるかもしれません。けれども、その根底にあるのは自然の循環やそこで生きている私たちの生活の基本だと思います。木を植え、育て、伐り、また植える。こうした繰り返しの中で社殿は建てられます。その技術もまた20年に一度、次の世代に受け渡されます。神さまにお供えする御装束やご神宝は美しく、それらは自然の恵みと人の手仕事から生まれます。

これまでなじみのなかった方にもご遷宮の魅力をお伝えできれば幸いです。ちんじゅの森サロンほぐほぐでは、年中行事や季節の手仕事、夕べの会や上映会等、また気が早いですが年明けには初のギャラリー企画もあり、引き続き日々の活動を積み重ねてまいります。どうぞ今後ともご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



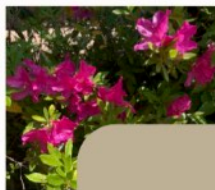
伊勢神宮 外宮

お米の一年 代かき

4月

さわやかな風が通り抜ける心地よい天気の中で、今年も田んぼの代かきをおこないました。水を張った田んぼの土を砕いて表面を平らにならす作業で、水深を一定にして、田植えにそなえます。最初からどろどろになんてならない！と決めている子、泥んこ大好きムツゴロウみたいなお子、いいもの見つけた！たらいの舟を浮かべて乗り込んで「押して〜」と言っている子、アメンボとりをしている子、畑のちょうちょがいい子、梅の実がうれしい子、さまざまでした。夢中になっている間は気づかなかった風に寒さを感じて、そろそろおしまい。最後は大人が鍬をつかってととのえました。一輪のシャクヤク、つつじの赤紫色も発色よく、賑やかな子供たちの声に大地の神様も喜んでくれたことと思います。

文京区目白台に届く水道の水は、江戸川、利根川をさかのぼり、群馬県の大水上山に降った雨の一滴から始まります。水があって、土があって、お日さまがあって、作物が育ち、私たちはそれらを食べて生きていきます。「お米の一年」の活動が、こうしたつながりを再確認するきっかけとなることを願っています。



令和7年度 前半

活動報告

お米の一年 お田植え神事と田植え

5月

晴天に恵まれて令和7年のお田植えを行いました。お供え物の祭壇には青々とした早苗も並び、お祓いのあと、今年も豊作と作人の安全を祈る祝詞をあげていただきました。荒々しい風雨に悩まされることなく、時に穏やかな風をうけて、虫の災いを避け、よいお米が実りますように。稲の倒伏を避けるため、アドバイスをいただき、田んぼの真ん中に十字路の「風のとおりの道」を作ることになりました。外でのお田植え作業中に、中では塩むすび隊がおにぎりをこしらえてくれて、ほんの少しずつですが、田植えの作業のあとみんなでいただきました。とてもおいしい塩むすびでした。

自然の恵みを得て、人はさまざまな工夫をこらして生活してきました。「自然を体感する」というにはほんの入口の活動ですが、私たちは自身を取りまく様々なつながりの中で生きていることをひと時確認する機会になればと願っています。



お米の一年 抜穂祭と稲刈り

9月

5月に田植えしてから早4ヶ月。数年前より稲刈りの時期を早めています。

稲刈り前のご神事では、今年のお米が実ったことを神様にお伝えし、これから作業する人たちが手足にけがのないようにお祈りしました。

今回も、夏休み「お神楽獅子舞教室」に参加してくれたお子さんが2人「稲穂の舞」を奉納してくれました。2人の選んだ袴のカラーは神職さんと同じ、さわやかな浅葱色でした。お子さんたちの舞に神様も大いに喜んでくれたことでしょう。

さて、稲刈りは、なかなか理想の光景から遠く、今年は稲とノビエが半分ずつくらいでした…。稲の倒伏を避けるため、田植えの際、田んぼの真ん中に苗を植えない十字のエリアを作り、風の通り道と名付けました。しかし、風の通り道はノビエに喜ばれ、ノビエの自生地となったのでした。

今年はネットをさらに大きくしたので、スズメ様への献上は少なくて済みました。

収穫できたお米は多くありませんでしたが、稲は暑い夏にすくすく育ってくれましたので、よいお米の稲刈りができました。作業のあとは、定番のおにぎり、海苔、今年漬けた梅干しも添えて、お供え物のお下がりをおもてなすいただき、「お米小話」とともに、ひと時ゆっくり過ごしました。

総じて子どもたちは稲刈りよりも、トンボやバッタ、キリギリスの虫取りに夢中でしたね。

その後、静かになった空間では、今年も干した稲から水分が抜けていく音がプチプチ聞こえました。



伝統文化親子教室

7月

「はじめてのお神楽教室－神楽舞と獅子舞－」、今年は3日間連続です。猛暑のなか、元気いっぱいのお子もたちが集まり、神楽舞と獅子舞に取り組みました。講師は、相模里神楽垣澤社中の

ミズキ先生、マリコ先生、カオナ先生。

まず挨拶がとても大切です。扇子を前に置き、相手に敬意を示してご挨拶。前半は、昨年ミズキ先生がちんじゅの森のために創作してくださった「稲穂の舞」の練習。今年はフォーメーションを取り入れて挑戦しましたが、みんなとても上手でした。装束姿のお子もたちは凛々しく、そしてなんととってもとってもかわいい！

後半は、垣澤社中さんからやってきた獅子舞のアンちゃん（ヤンキー系）、ちんじゅの森に新しく加わったホグちゃん（助成金で購入、初々しい）とともに獅子舞の練習。山越しの要素あり、「おめでとうございます」「ありがとうございます」で締めくくられる本格的な内容になりました。それぞれ中に入ったお子もたちの個性が自然とにじむ、魅力的な獅子舞でした。

最終日には、神様のもとで発表会を実施。先生からは「神楽は神様に楽しんでいただくもの。それにはまず自分が楽しむことが大切。間違えても大丈夫。心をこめて舞いましょう」と温かい言葉をいただき、お子もたちは3日間の成果をのびのびと披露してくれました。



梅仕事 協力：日本女子大学公衆栄養学研究室・食育ボランティアグループ

「季節の手仕事—梅干し」を開催いたしました。

梅の香りがふんわりと広がる室内で、今年も日本女子大学の学生さんによるレクチャーのもと、梅干し作りに取り組みました。梅は、鳥取県東部・八頭町志子部集落から届けていただいたもの。この集落では、鳥取市内の子どもの体験や交流の場として梅林のお世話をされています。昨年は不作でしたが、「今年はたくさん大丈夫そう！」とのことで、たっぷり送っていただきました。

当日は、梅のヘタを取り、洗い、拭いて、塩をまぶすところまでをみんなで行いました。ここからは、各ご家庭でのお世話を託します。赤紫蘇は、首都圏と栃木県の二拠点で暮らす会員さんからお届けいただいたもの。梅酢が上がってから加えてもらうよう、おのおの塩もみしたものを、お持ち帰りいただきます。スタッフがささっと赤紫蘇ジュースを仕込み、学生さんのお話を聞いていただいている間に、みなさんにふるまいました。眩しい陽射しの日でしたが、外の風は意外にも爽やかで、たらいの中の梅は光を受けてきらきらしていました。

その後…

【梅を干す】

6月29日に仕込み、梅酢が上がったので7月12日に赤紫蘇を投入した梅。7月23日から三日間干します。大きなザルに梅を並べてほぐほぐの梅の木に引っ掛けて干す光景が気に入っています。今年は梅雨明けも早く、土用入りして以来、猛烈な日差しです。せっかくのぶるぶるした梅が完全に干し上がらないよう見守り、夕方には一度取り込んで、梅酢に戻すと良いようです。

【梅酢もおいしい】

今夏、熱中症対策に役立っているのが梅酢です。

干した梅の一部を梅酢に戻して保存していますが、この梅酢を少量グラスに取り、水で薄め、さらに少しのお酢を加えると、すっきりとした飲みものになります。見た目にも涼やかで、塩分と梅の風味がほどよく、体にやさしくしみわたる一杯です。また、今年の梅干しは、ふっくら美しく仕上がりました。味をとってもしょっぱいだけでなくだんだんと梅果実の風味が口いっぱいに広がって、とてもよい出来です。土用の期間中に日中干した梅を每晚梅酢に戻しておいたのがよかったのかもしれません。



じゃがいもの会

「畑の恵みを味わおう-じゃがいもの収穫と芋餅作り」を行いました。「育てて、収穫して、調理して食べる会を行いたい!」という大学生の思いからはじまった企画も3年目となりました。今回は北海道の郷土料理の芋餅を作ります。

3月8日に種イモを植えて約120日。土の中からじゃがいもを掘り出すのは、まるで宝探しのようなワクワク感!みんなそれぞれ満足するまで芋掘りして、たくさんのじゃがいもを収穫できました。

暑かった外から室内に戻り、先日作った赤紫蘇ジュースや梅シロップジュースを飲んだり、七夕の短冊を書いたりしてひと休みです。芋餅作りは、掘りたてのじゃがいもをゆでて(大学生がゆでてくれたのを)、マッ



コンポストの会

ゲスト：安西美喜子さん(NPO法人コンポスト東京代表理事)
協力：「一財」都市農地活用支援センター
農林水産省「令和7年度都市農業機能発揮対策事業」

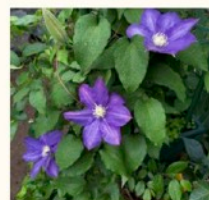
講師に原宿はらっぱファームのプロジェクトリーダーも務めていらっしゃる安西 美喜子さんをお招きしてコンポストワークショップを開催しました。

美喜子さん曰く、「コンポストはガーデンのハート」とのこと。原宿はらっぱファームでは端っこに置かれがちなコンポストがガーデンのハートとして真ん中に配置されています。人と自然が切り離されて不自然になってしまっている部分をコンポストで微生物が働いてくれることで循環されていく。コンポストイレイや食べもの残渣など地球に返すことできて、ようやく人も自然の循環の中に入れるかもしれません。お隣韓国では生ゴミリサイクルほぼ100%とか!!気軽にできるコンポスト。引き続き開催したいと思います。



園芸班活動

今年は園芸班活動で、ひょうたん棚を作りました。鉢植えで育て、うまくつるが伸びて、やがて天から実がぶら下がり、木陰のような涼しさをつくってくれることを期待して。月に1回程度活動し、手入れしながら季節の花を育てています。ご興味ある方は、ちんじゅの森会員にご登録の上、ご参加ください!



ゆるく集まる夕べの会

4月から「ゆるく集まる夕べの会」を開催しています。お米の値段が上がり、スーパーで購入するのも難しくなるほど品薄となった状況などをきっかけにスタートしました。日々の食卓に上る食べ物がどこから来て、どのように私たちの手元に届くのか、さまざまな地域でご活躍の現場の方たちからリモートやリアルで直接お話を聞いて、その「食の由来」を深く探ることを目的としています。

日頃の活動でつながりのある仲間をゲストにお迎えすることからスタートし、さまざまなスタッフの知り合いやゲストの方の紹介により回を重ねています。参加したメンバー一人ひとりが自身の食生活そのものについて考えるきっかけを創出すると同時に、他地域に顔の見えるつながりが増えて、さまざまな形で交流できる関係を築いていくきっかけとなることを願っています。

4月19日

岡崎昭都さん（鳥取県八頭町 岡崎ファーム 柿農家）



第一弾は、干し柿作りでおなじみの岡崎ファーム岡崎昭都さんが快諾してくださり、Zoomをつなぎ、「いま地方はこうなっている」というお話を聞かせてくださいました。農家と農協、農政、流通。農家の現状と消費者意識のズレ…など、驚きの事実あり、ストンとくる納得感あり、あっという間の時間でした。

お話のメモ✓

2年前と同様に作っていて米の生産量は減っていないはずだが、高騰し、不足していることに違和感ある。真偽の不明瞭なネット情報が多く、農家も消費者もそれに惑わされすぎる面もある。就農者は多くが高齢者なので2050年に目標を定めた「みどりの食料システム戦略」はなかなか響かない。地元の同世代(40代)はお米を作らない。平日会社員として働き、土日まで農家の仕事をやりたいと思わないということだろう。柿についても同じ。農協の栽培計画に添って行い、やったことのないことをやろうとは思わないというスタンスの農家は多い。定年後の移住者は新しいこともどんどんやる。今はその人たちとグループを作って、次の世代につなぐため、木を植え替え、なるべく有機でできる圃場作りをしている。だが今後さらに高齢化は進み、5年で生産量はどんどん減り、10年後農協は機能しなくなるかもしれない。よくもわるくも農協がなくなれば確実に地方の農家は衰退するだろう。シンプルな仕組み必要だが、「農家は儲からないという仕組み」が出来上っているかもしれない、など。



▲岡崎ファームさん
Instagram

その後、備蓄米の放出やアメリカからの米の輸入といったニュースを聞く耳が、変わりました。

5月17日

中山悟さん（宮崎県高千穂郷日之影町 無農薬/無化学肥料の露地野菜栽培）



印象的だったのは、私たちが「買ったものが未来に残る」という一言ことでした。中山さんの有機野菜を育てるおもしろさと大変さを伺い、こちらからの質問にお答えいただきながら、あっという間の時間を過ごしました。

お話のメモ✓

自分の肌感覚として、虫は肥料をもらいにくる、窒素を吸いに来るのではないかと思う。土中が乾燥すると虫がくる。土壌水分は手で確認しないとわからない。乾燥と微生物の関係は繊細。有機野菜を作り、農協を通さず販売している。時間を取られるので、金銭的にも農協に出すほうがメリットあるかもしれない。しかし、中身の味と全然関係ないところで値付けされ、見た目が重視される。なので、こだわりのもって直販している。直販のお客さんは見た目を気にしない。気候変動、地球温暖化は大問題。収量も落ちる。気温が一度違えば育たないということもある。九州のお米を東北に持っていけば育つかも。高温現象でお米も一等級が少なくなっている。今年は春が寒く、九州の梅雨入りが早かった。気候の変化に農業は翻弄され、とくに露地野菜は大変。平均気温が変わると日本全国で作物育ちにくくなる。これからの農業全体の課題。現場の実感を、農政に汲み上げる仕組みが弱い。どうしてもお金が動くことに流れてしまい、機械化ばかりにお金がつく。本当はこの気温上昇の現実の中で、どんな品種ならよく育つかという試みにお金がついてもいいはずなのに。気候の変化は急にこその戻りことはないとして、今年から高温に強い品種に一部変更している。

消費者はどうするのがよいのか…、「買ったものが未来に残る」。週に1回、国産の野菜、無農薬の野菜を買うのはどうか。こじやれたオーガニックのお店で有機農家の野菜を買うのもいい。魅力的であるとは「健康美」のことでは？サブリより野菜！おいしい野菜を見分ける感覚も大事！



▲中山さん
Facebook

より自然に育った力強い野菜を食べて健康美を手に入れる。そこから始めましょう！

7月6日

川部源太さん（山梨県笛吹市芦川町 不耕起栽培の自然農法を実践）



▲川部さん
Instagram

川部さんは毎年7月から12月の間、月に一度、東京・護国寺近くで自身の野菜を販売しています。ちんじゅの森サロンほぐほぐのすぐ近くというご縁もあり、この日は川部さんをほぐほぐにお迎えし、川部さんの育てた野菜を使ったお料理を味わいながらお話を伺いました。

源太さんの取り組む自然農法（不耕起栽培）の詳細を初めて知る参加者が多く、驚きの連続でした。草や虫を「敵」とせず（「無敵」）、自然の営みを活かしながら野菜を育てるその姿勢は、環境への負荷を減らすだけでなく、作物本来の力を引き出すものです。

「戦わない農業」が伝えるメッセージは、農法を超えて人との関わりや暮らし方にも通じます。源太さんの生き方そのもののようにも感じました。

不耕起栽培という農法は生産性が高くなく、冬場は林業なども行うとのこと、「頼まれれば断らない」スタンスで、自らを「百姓」であるとも伝えてくださいました。

農は生産者だけのものではなく、食べる方と一緒に育てていくものと考えていらっしゃることに大変共感しました。

不耕起栽培は、「さまざまな死の蓄積の豊かさ」を活かす農法であると理解しました。複雑な味、苦味、えぐみ、辛み…深みのある味の重なりとともに、さまざま感じた時間となりました。

レポート(PDF)も
ご覧ください! ▶



8月9日

林強徳さん（北海道 標津町 漁師）



▲林さん
Instagram

お話を聞いたメモに残っているのは、データ重要、漁師／漁業者、過程、◎教育、浜値、魚しめる技術、流通のしくみ、自分へ向けた資源管理、根源、勘+科学、つながり…など。

ぐうの音も出ないほど、スカッと本当のお話を聞かせていただきました。

林さんにお話を伺ったあと、目白台参集メンバーは、資本主義、都市生活、日頃の食事など思うところをそれぞれ自由に話しながら、持ち寄りのお料理を楽しみました。学生さんや社会人1、2年生も来てくれていて、年を重ねた雑多な社会人との会話もなにかの役に立つかもしれません。

もとい、他地域で一次産業に従事する方たちあってこそその都市生活。お金がもっとも大事という価値観でいると足元を掬われます。都市生活者が食べ物は商品である前に作物や生き物であることや、都市生活が他地域と地続きであることを確認することはとても大切だと思います。

私たちのいのちがどこにつながっているか、確認するきっかけの活動をこれからも作っていききたいと思っています。

レポート(PDF)も
ご覧ください! ▶



今後のゆるく集まる夕べの会

■10月18日(土) きのこの会 きのこの専門家・根田仁さん

10月は根田先生をちんじゅの森サロンほぐほぐにお迎えします。

根田仁さんのご著書は「きのこ博士入門(たのしい自然観察)」「きのこミュージアム: 森と菌との関係から文化史・食毒まで」など。地域コミュニティでのきのこ観察会を開催されるなど、森ときのこ、そして人々の暮らしをつなぐ活動に尽力されています。お話を伺ったあとは、みんなできのこ汁を楽しみましょう！

■11月15日(土) 徳島県 つるぎ町 磯貝一幸さん（雑穀、野菜など多品目、農家民泊）のお話

磯貝さんにはリモートでお話をいただきます。

世界農業遺産に認定されている農業を親から受け継ぎ、傾斜地農業の可能性も追求しておられます。身体にいいイメージの雑穀。一幸さんはレトルトのスープやパスタソースの開発も考えているそうです。

Vol.2 「伊勢神宮の森と水 - 循環の聖地」



深い森にたたずむ伊勢神宮。伊勢神宮の神様のお住まいは、檜づくりのお社で、掘立柱と萱葺の屋根が特徴です。たくさんの檜の木材を要するご遷宮のお祭りは、令和7年5月、御用材（お社を建てるための檜）を伐るにあたり、山の口の神様へご挨拶することから始まりました。

御用材の伐採、搬入、加工（木造り）、建築が進められ、さらに御装束（神様のお召し物）や神宝（神様にお供えする宝物）が調えられて、神様に新しいお社へとお引っ越しいただくまでに、たくさんの祭りや行事が行われ、祈りが重ねられます。

伊勢神宮の森は水の恵みを守り、水は森を潤し、お日様とともに木々を育てます。今回のフォーラムでは、その循環が支えるご遷宮の背景について、写真家・稲田美織さんに語っていただきます。



詳細・お申し込みは
こちら▶



Vol.1 「Road to ご遷宮」 終了報告

令和7年6月13日、第63回神宮式年遷宮の諸祭の始まりの年に「東京のお伊勢さまで学ぶご遷宮フォーラム」の開催をスタートいたしました。

初回ナビゲーターをおつとめくださったのは、櫻井治男さん、濱千代早由美さん。今年行われるお祭り、これから続いていくお祭りをとおして、ご遷宮の全体像をお話いただきました。

会場参加・後日オンライン配信視聴参加、あわせて100名以上の方にご参加いただきました。

なにかと専門用語も多いご遷宮のお祭りを、わかりやすい言葉でお話くださった先生方の語り口に、多くの参加者が親しみを感じ、楽しんでお聴きくださいました。

ちんじゅの森サロンほぐほぐ

令和7年度後半の活動予定

10月	5日	お月見団子作り（日本女子大学公衆栄養学研究室 共催）
	18日	ゆるく集まる夕べの会「きのこの会」
11月	1日	干し柿作り共同作業
	15日	ゆるく集まる夕べの会（徳島県つるぎ町 雑穀農家 磯貝一幸さん）
	22日	収穫のお祝い
	29日	和のこころを学ぶ「しきたりの知恵」 主催：和楽舎
12月	20日	しめ縄づくり（社団法人地湧の杜 共催）
2月	6日～12日	ギャラリー youpeiman&かるさん作品展
	22日	餅つき交流会
その他	毎週木曜日	親子サロン（目白台親子サロン運営グループ主催）
	月1回程度	園芸班活動

活動予定は変更することがあります。



今後開催する企画の情報は、HP・SNS・メールにて随時更新します。
イベント告知のメールをご希望の方は、下記QRよりご登録ください。



HP



Instagram



告知メールをご希望の方は
コチラ

／ おうちの生ごみを
資源に変える ／

コンポストのススメ

おうちの生ごみを「資源」に変える小さな自然循環。

キッチンから自然とつながることができるのが「コンポスト」です。私たちの暮らしの中で毎日出る生ごみを、そのまま「ゴミ」として捨てるのではなく、堆肥にしてみませんか？

腐葉土、米ぬか、不織布袋を利用した、小さなコンポスト作りをご案内しています。とっても簡単にお手軽にできる方法です！

コンポストワークショップをきっかけに、資材をセットにして、ちんじゅの森事務局にてお分けしています。

生ごみを堆肥にして、ベランダで野菜を作りや、季節の花々を育ててみてはいかがでしょうか。

おうちでガーデニングされない方は、出来上がった堆肥をちんじゅの森サロンほぐほぐに持ってきていただくのも大歓迎です♪



NPO法人ちんじゅの森 サポーター募集！

NPO法人ちんじゅの森の活動は会員の皆さまからの会費と寄付で運営しております。活動の趣旨に賛同してくださる方はぜひ会員になって、活動へのサポートをお願いいたします。会費は年間1口2,000円です。ご寄付に規定はございません。

はじめて会費や寄付にご協力くださる皆様へ

ちんじゅの森HP「ご支援のお願い」より、「会員申込フォーム」にてお手続きくださいますようお願いいたします。
右記QRコードからページにアクセスいただけます。

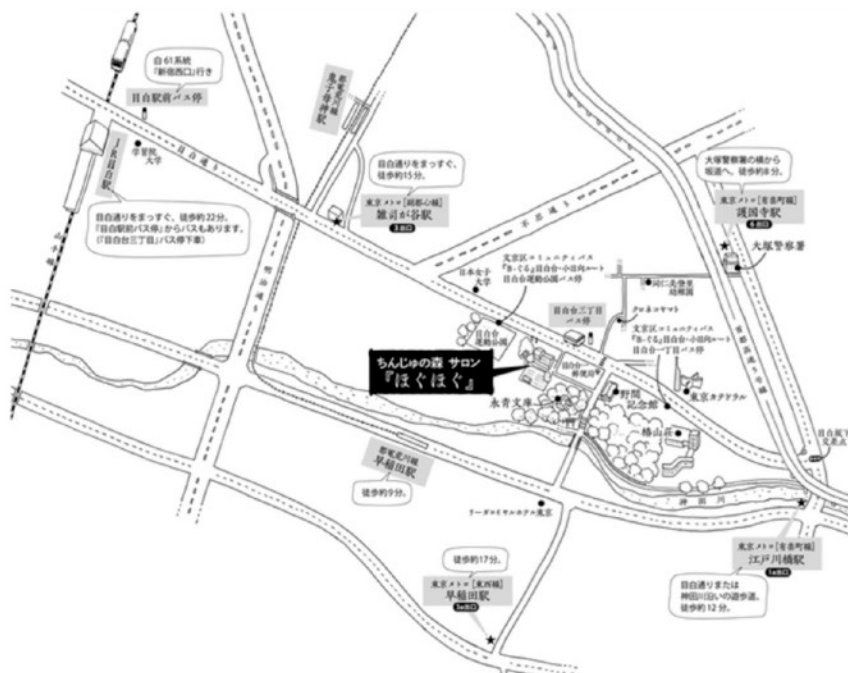


<https://www.chinju-no-mori.or.jp/shien>

NPO法人ちんじゅの森

☎ 03-6877-0425 ✉ hoguhogu@chinju-no-mori.or.jp

📍 〒112-0015 東京都文京区目白台1-22-2 (ちんじゅの森サロンほぐほぐ)



ちんじゅの森サロンほぐほぐは、東京大神宮菜園のある場所をお借りしている、NPO法人ちんじゅの森の活動拠点です。年中行事や季節の手仕事、トークイベントなどを通して、日本の暮らしの中で大切にされてきたものを確認し、それらを未来につなぐ活動拠点として運営しています。 **ほぐほぐ**

HP



Instagram

